

情報クリップ

農業情報ピックアップ

●4/30 食料だけが聖域と批判
「自由貿易に当たっての一番の問題は農業問題」「食料だけが聖域になつてゐる」「ユニクロ」を展開する柳井正ファーストリテイリング社長が、経済財政諮問会議メンバーによる有識者ヒアリングで、農政などを痛烈に批判していた。柳井氏は個人、企業、国ともに将来にかけるとの決心が必要で「それが無い限り『昔を振り返る閉じた老人の国』になる愚を犯す」と警鐘を鳴らした。

JAS法違反・偽装表示

4/8 86業者がJAS法違反
茨城県が食肉関係の180業者を実態調査した結果、うち86業者がJAS法で義務付けられている原産地を表示しなかったり、不適正な表示をしたりして販売していたことが分かった。県は今後、口頭や文書で改善指導や立ち入り検査する。

雪印食品の偽装牛肉事件を受け、3月に食肉販売136、食肉処理44の計180業者を実態調査。その結果、全部の商品に適正に原産地などを表示して販売していたのは、販売、処理業者合わせて94業者で、86業者はJAS法違反だった。

4/10 タマネギの産地を「偽装」淡路島で
農産物卸売業者が、大阪府内のスーパーから北海道産タマネギの注文を受けたのに、産地を表示しないで米国産タマネギ計約300kgを出荷していたことが、兵庫県

の調査で分かった。県によると、タマネギはことし1、2月に出荷され、大阪府と兵庫県の店舗で販売されたが、北海道産として店頭に並んだ可能性も

あるという。

(共同)

4/20 米の産地を偽装表示

食品卸のユアサ・フナシヨクは、他県産米が混入した商品を「千葉県コシヒカリ100%」などと表示して販売し、JAS法に違反したとして、農水省から表示を改善するよう指示を受けていたと発表

した。同社は偽装の理由について、「仕入れなどの失敗による赤字を補てんしたかったのではないかとみており、偽装に直接関与した米穀本部長、米穀部長、精米工場長の3人を近く処分する。

(時事)

4/30 伊達鶏偽装、94年から2347t出荷

福島県梁川町の食品卸加工会社「伊達物産」が輸入鶏肉を地元産のブランド銘柄「伊達鶏」などに偽っていた問題で、県は立ち入り調査の結果をまとめた。

保管されていた94年度以降の伝票を調べた結果、関連会社と下請け会社に指示し、今年3月までに計約2347tを偽装して出荷したと断定。また、国産プロイラーを「伊達鶏」に偽装していたことも新たに分かったが、偽装の時期と量は不明という。

(朝日)

食の安全・安心

4/15 中国産鶏肉、一部輸入停止
農水省は、中国河北省の食鳥処理場で加工された鶏肉からニューカッスル病ウイルスを検出したと発表した。同省は、中国政府に出荷農場の特定を要請するとともに、同処理場からの鶏肉の輸入を停止する措置を取った。

(時事)

4/26 ホウレンソウから基準値を超える量の農薬を検出

全国約4万人の農業従事者で作る農民連は、外食店などのホウレンソウ食品3品から国の安全基準値を超える農薬が検出されたと発表した。日本では使用禁止の農薬も見つかっており、農民連は国の検査体制の強化を求めている。調査対象は、今月5、11日に東京都と埼玉県の外食店やコンビニなど計11店で販売されたホウレンソウのソテーやごまあえ。

(毎日)

雪印関連

4/27 農林中金が雪印に数百億円支援へ

子会社の牛肉偽装事件で業績が低迷している雪印乳業が、主力金融機関の農林中央金庫から数百億円規模の金融支援を受ける方向で調整に入ったことが明らかになった。子会社や牛乳部門などの事業、子会社の切り離しに伴って来期以降、債務超過に陥る懸念があるため、債権放棄と債務の一部を出資に振り替えるデットエクイティスワップ(DES)を組み合わせた案が有力だ。雪印乳業は、全農と伊藤忠商事による増資の引き受けと、農林中金からの金融支援で

早期の経営再建を目指す。(読売)

5/10 雪印食品5人、詐欺で逮捕
「雪印食品(今年4月解散)」が輸入牛肉を国産牛肉に偽装していた事件で、兵庫、埼玉両県警などの合同捜査本部は、業界団体に買い取り申請したとされる元本社ミート営業課課長の島山茂容疑者ら当時の幹部社員5人を、約1億9500万円の買い取り代金をだまし取ったとする詐欺容疑で逮捕した。また、同本社や関西ミートセンター、容疑者の自宅など数か所を一斉捜索した。5人とも容疑を認めている。(読売)

狂牛病

4/10 イルウトに狂牛病発生国の肉骨粉混入の可能性

農水省は、狂牛病感染源をめぐるイタリアルトの再調査結果を発表した。国際的な処理基準を満たしていなかった肉骨粉のうち、日本が96年11月に輸入した分に、狂牛病発生国だったアイルランドやスイスの肉骨粉が混入していた可能性があると述べた。調査は同省担当者らがイタリヤの担当者から聞き取りをし、肉骨粉製造工場を訪れて関係者から話を聞いた。

その結果、96年11月に日本に届いた肉骨粉について、アイルランドなど欧州6ヶ国からイタリヤに持ち込まれた原材料が使われていた可能性が確認された。

(朝日)

5/7 牛肉自粛の市町村、16%に低下 学校給食

狂牛病問題に絡み、学校給食で牛肉の使用を自粛している市町村

の割合が全体の16%まで低下したことが、農水省が4月末に行った調査で分かった。同省は自粛率低下を「牛肉の安全性への理解が浸透してきたため」（狂牛病対策特別チーム）と分析している。（時事）

5/12 4頭目のBSE感染牛確認

北海道釧路市内の食肉処理場で解体処理され、BSE（牛海綿状脳症Ⅱ狂牛病）の1次検査で陽性反応が出ていた乳廃牛（6歳1ヶ月、ホルスタイン種）は11日夜、帯広畜産大で行われた確認検査（ウェスタンブロット法）の結果、感染が判明した。国内で4頭目の感染牛となる。この牛は、農水省が肉骨粉の使用禁止を指導する直前の1996年3月23日生まれ。過去3頭の出生日も、2頭が同年3月26日、1頭が4月4日と同時期で、厚生労働省や農水省は関連に注目している。同省などによると、この牛は北海道音別町の酪農家で出生、飼育され、今月10日に廃用牛として釧路市内の食肉処理場に出荷。同日中に釧路保健所で行われた1次検査（エライザ法）で強い陽性反応が出ていた。国内では千葉県白井市（昨年9月）、北海道猿払（さるふ）村（同11月）、群馬県宮城村（同）で計3頭の乳廃牛の感染が確認されている。白井市の牛は北海道佐呂間町生まれで、4頭のうち3頭が北海道生まれとなる。（読売）

テクノロジー

4/12 トマトの成熟を進める遺伝子米国グループが発見

植物の実を熟させる働きを持つ遺伝子を確認したと、米農務省の

研究所などのグループが発見した。研究グループは、通常のトマトに比べて成熟が遅いため実が柔らかくなりやすく、長期間の流通に耐えるとして品種改良に使われている変種のトマトに着目。このトマトでは、**Ⅱ**という遺伝子に変異があることを突き止めた。**Ⅱ**は、トマトの実が柔らかくなる成熟プロセスのコントロールに関与。この遺伝子と逆の配列を持った「アンチセンス遺伝子」という人工の遺伝子で、**Ⅱ**にふたをできるようにして、その働きを調節すると、トマトの成熟をコントロールすることができた。（共同）

4/19 植物の成長促進物質を発見
植物の発芽や成長を促進する特殊なタンパク質を、理化学研究所と米ソーク研究所の共同研究チームがアブラナ科の植物シロイヌナズナの突然変異種を用いた実験で発見したと発表した。育種や遺伝子操作により植物にこのタンパク質を作らせて、農作物の収量を増やしたり、栄養が乏しい状態を育つようにできると期待されている。このタンパク質は、イネやトマトなど多くの植物が共有しているあるタンパク質の正常な遺伝子が、一塩基だけ置き換わった変異で作られる。このため、育種や簡単な遺伝子操作により、人為的な変異を起こすことで、このタンパク質を作ることが可能という。（共同）

4/28 クロロゲン遺伝子に何らかの異常 羊ドリー生みの親が警告

英紙サンデー・タイムズによると、世界初の体細胞クロロゲン動物の羊ドリーを作った英国のイア

ン・ウィルムット博士が、これまでにつくられたクロロゲン動物すべての遺伝子に何らかの異常があると思われるとの調査結果を発表した。博士は、イタリアや米国の医師が進めているクロロゲン人間づくりに対し、遺伝子の欠陥を伴う危険が極めて大きいと強く警告した。博士は世界のクロロゲン動物を追跡調査した結果、日常的に発生している異常として、①羊、牛の場合体の巨大化 ②マウスの場合、胎盤が正常の最大4倍に肥大③豚の場合は心臓の欠陥を列挙。このほか発育障害、肺の異常、免疫機能不全、突然死なども見られた。（毎日）

国際関係

5/9 農業補助金上積み、米上院が法案可決

米議会上院は、農業補助金を大幅に積み増す「新農業法案」を可決した。同法案はすでに下院を通過済みのため、ブッシュ大統領の署名を経て、近く成立する見通しだ。ただ、この法案にはEUなどから「保護主義的だ」との批判が出ており、WTOなどで新たな貿易紛争の火種になる恐れもある。新農業法案は6年間の時限立法で、451億ドルの補助金を上積みし、市況悪化などの際に農家の損失補てんにあてることが柱。（読売）

5/9 米産リンゴ 米国がパネル設置を要請

米国政府は、米産リンゴに対する日本の厳しい「火傷病」の検疫制度はWTO協定に違反するとして、WTOにパネルの設置を正

式に要請した。リンゴの木の伝染病、火傷病に対する日本の検疫制度をめぐる、火傷病はないと主張する米国が日本の検疫が厳しく、貿易の障害になっているとWTOに提訴していた。（毎日）

トピックス

4/8 ユニクロ コメ、野菜などネット通販 11月めどに

カジアル衣料品店「ユニクロ」を展開するファーストリテイリングは、11月をめどにコメ、野菜などのインターネットを活用した通信販売を始めることを明らかにした。同社は当初ユニクロ店とは別の食品専門店をチェーン展開する構想を示したが、当面は通信販売でスタートし、店舗展開の検討も続ける。1月の発表では「永田農法」と呼ばれる農産物の生産指導で知られる「永田農業研究所」と提携し、トマトなど青果物を販売すると説明していた。その後の検討で、野菜全般のほか、コメ、牛乳、卵や、ミカン、リンゴなど果物全般も販売することにした。コメは秋田県大潟村の農家と生産契約を結び、「あきたこまち」や「コシヒカリ」を販売する。食料品はユニクロ店では販売しない。ブランド名も新しく付けるという。（毎日）

4/17 廃ペットボトルで電気さくシカヤイノシシによる農作物被害に悩む長野県長門町が、使用済みのペットボトルを設置した。静電気を起こし、動物を傷つけずに驚かせて逃がす仕組みだ。簡単に

手に入るペットボトルを樽子代わりの絶縁体を使う。12Vの電池を電源に、22haの耕作地の周囲約8kmに張り巡らせたエナメル線に通電。動物が触れると、70000Vの静電気が起きる。（朝日）

6月のイベント

(国内)

●2002国際食品工業展

6月11～14日
会場 東京ビッグサイト
内容 アジア最大の食品製造・加工分野の総合見本市
主催 日本食品機械工業会
問い合わせ 03-3503-7661
公式サイト <http://www.fooma.or.jp>

(海外)

●FOOD TAIPEI 6月12～15日

会場 Taipei World Trade Center (台湾・台北)
内容 各種食材・食品・飲料の見本市
主催 遠東貿易サービスセンター
問い合わせ 03-3407-9711

●The Royal Highland Show

6月20～23日
会場 Royal Highland Centre (イギリス・エディンバラ)
内容 農業全般に関するトレードショー。牛、羊、馬、ヤギ、鶏肉など精肉を400種以上出展
主催 The Royal Highland and Agricultural Society of Scotland
問い合わせ +44131-335-6200